

草 笛

社会福祉法人 日本民生福祉協会
 軽費老人ホーム 富士見が丘いこいの園

令和三年八月二十六日発行



「夏雲」

七月初めの記録的な豪雨の影響で、熱海では土石流により多くの人命が失われました。自然災害だけでなく、盛り土の崩落による人的災害の面も検証されています。

昔から何度も豪雨や台風といった自然の猛威を経験してきたわが国でも、最近では地球規模の温暖化による熱帯性の豪雨や猛暑が発生しているようです。

他にも地震や富士山の噴火への懸念、新たな感染症の発生といった、繰り返される災害への脅威が取りざたされています。

中でも富士山の噴火は、膨大な火山灰の影響がどれほどの災害をもたらすか想像できません。

何百年も前、人口も少なく、インフラも木造の建物だけ、社会制度も封建主義で、民主主義も複雑な制度もなかった昔々の日本に戻ることはできません。それでもきっと大打撃を受けた未来の日本は、大混乱の中から立ち直っていくことでしょう。

立秋が過ぎ、これから朝晩涼しくなっていくと思います。今年の夏はいつとはなく消えていった入道雲のようでした。



施設長 宮澤良男

令和3年5月～8月 生活・行事の様子

今年は、例年ございます季節の行事は、中止または、簡素化して行っております。



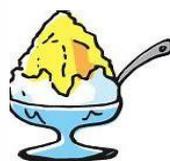
「食事前の口腔体操」



ローソンでお買い物
「日用品も買ってるよ」



夏祭り
「かき氷美味しいよ」



夏祭り「お菓子すくい」



「2階廊下にて」



コーラスクラブ
「大きな声を出してます」



8/19
「血液検査・心電図」

「身体拘束廃止推進委員会」活動のご紹介

富士見が丘いこいの園には、身体拘束廃止推進委員会という活動組織があります。どんな活動かと言えば、身体を自由を制限したり言葉による拘束で利用者様の身体や精神の自由や尊厳を制限することをなくし、自由で尊厳ある生活を実現していこうとする活動です。

施設や組織というものは、往々にして、安全優先を掲げて、利用者様の自由や、活動を過度に制限してしまうことがみられます。事故ゼロを目指し、利用者様の安全を守ろうとしながら、一方でリスクがあっても自由な生活も実現していこうとする。矛盾があるようですが、利用者様の了解、納得があるか、やり過ぎがないかが問われます。

職員は、利用者様の生活（人生）に対して謙虚でなければと思います。コロナ禍という目に見えない災禍に対して、科学的で納得できる対応をしているか、今の課題です。



『接遇に関する職員アンケートから』

「利用者様にも職員にもタメ口の職員がいる。自分の考えを押し付け、利用者様本位を理解できていない。」 **自分のこととして心に留めます。**

『園庭の草も元気がいいです』

園庭の草が元気よく伸びました。この時期刈っても刈っても草の生命力に追いつきません。秋を迎え、すっきりとした園庭で散歩を楽しんで頂きたいと考えております。いこいの園は、少し高い位置にあるので空の広がりを感じることができ、空気も澄んでいて思い切り深呼吸ができます。



ご家族の皆様へ

新型コロナワクチン接種の2回目が、7月19日に完了いたしました。この原稿を書いている時点で第五波が襲来し、東京オリンピックの開催と並行して都市圏には緊急事態宣言が出されました。感染者の多くは、まだワクチン接種が進んでいない若年層、壮年層に集中しているようです。

今後、感染状況がどのように変化していくかわかりませんが、静岡県他多くの府県で緊急事態宣言が出される状況にあります。2回のワクチン接種により、抗体が安定し感染しにくくまた感染させることの無い状況が利用者様の中に生まれてくれば、生活制限を徐々に緩やかにしていかなければと考えております。

ご利用者様、ご家族様には長期間に亘りご不自由をおかけしております。この間、ご利用者様ご家族様の様々なご事情に応じてきたつもりですが、管理優先にならないようご要望、ご質問は遠慮なくお聞かせください。



苦情の受付

投書他で、以下のご意見がありました。

(令和3年5月から令和3年7月まで)

苦情	2 件
要望	6 件
合計	8 件

苦情受付担当者 石橋菜穂子
苦情解決責任者 宮澤 良男

(要望) 食事の要望、「焼き魚を生姜や大根おろしで食べたい」、「同じような魚が出ている」、「味が薄い」、「青菜の茹で方が悪い」
(回答) 食事時栄養士が回ってきたとき、要望を伝えることもできます。
(要望) 新玉ねぎの美味しい季節で、出してほしい。
(回答) 新玉ねぎの味噌汁をお出ししました。
(要望) レクリエーションをしてほしい。
(回答) 皆様からの提案もどんどん出してください。
(苦情) 入所時の荷物を、職員が、ご家族の了解だけで開梱し、余分だと思ふものを処分した。
(回答) 施設長と、相談員で謝罪し、職員には利用者様本位の対応の徹底を伝えた。
(要望) ナイフの必要時のみのお渡しについて
(回答) 果物ナイフで、手を切った方がおり、必要時はいつでもお渡しする形をお願いする。
(苦情) ショートステイでの忘れ物について
(回答) 当該利用者様に謝罪の上、持参品の管理についての方法、マニュアルを見直す。

<ショートステイ通信>

コロナ禍が続く中で、「新しい生活様式」をショートステイでも取り入れ対応しています。ご利用時の体調確認と検温は、ご家族様の協力の下継続しています。来園時は必ず手洗いをご案内し、食堂席はソーシャルディスタンスをとった配置としています。

ご不自由をお掛けすることもあります。ご利用者様に安心してショートステイを利用して頂けるよう引き続き対応していきます。

毎月1回のおやつ作りや行事なども楽しんで頂けるよう職員一同取り組んでまいります。

「フルーチェ作ります」



鈴カステラ

「楽しく作って食べてます」



「美味しいね」



<編集後記>

コロナ禍での2回目の夏。どんなに大きな災害も2年にもわたり続くことなどないと思っていました。店に入れば手指消毒、人と接するときはマスク着用、といった新しい生活様式はまさにスタンダードとして定着していかうとしています。



発行元 社会福祉法人 日本民生福祉協会
軽費老人ホーム富士見が丘いこいの園
〒419-0121 静岡県田方郡函南町大竹20-1



電話 055-944-6644
FAX 055-944-6714